



6 / 12
(火) 開催

総会&総会記念セミナー受付中

※詳細はホームページをご覧ください
<http://www.npogarden.com/>

- スケジュール : 13:00 ~ 14:00 総会 (12:40 より受付)
14:10 ~ 17:00 セミナー (定員: 100 名)
17:10 ~ 19:00 懇親会

- 場 所 : 虎ノ門パストラル 新館 5 階 マグノリア会議室
(東京都港区虎ノ門 4-1-1 TEL.03-3432-7261 (代))

- 会 費 : 会員社 1 名無料、2 名以上および非会員 1 名につき 5000 円 (懇親会費含む)



今月のコラム

長岡 求 (株)フラワーオークション ジャパン)

私が鉢物専門市場に入社した 1978 年はオイルショックの影響から景気が悪く、鉢物の市場卸売額が初のマイナスを記録したと記憶している。市場に入社したのは選択ミスかとも思ったが、それは 1 年で終わり、翌年からは再び成長の時代を迎えることになった。まず、観葉植物の売れ行きが良くなり、1980 年頃からは洋ラン類が売れ初め、1990 年代にはガーデニングブームを迎え、20 年以上にわたり順調に売上げを伸ばすことができた。転機を迎えたのは 2002 年、それ以降の状態は皆さまの知るとおりである。

観葉植物が売れた時代は、マンションブームに支えられてのことであった。リビングルームが広くなり、応接三点セットが据えられ、その脇に観葉植物、というよりもグリーンインテリアを置くことが普及した時代である。1980 年代は付加価値をつける工夫がなされ、消費も高級品志向が進み、洋ランなどは高いものから売れるといった現象がみられた。1990 年がそのピークだったことからみても、高級化を推し進めたのはバブル景気であることは歴然である。1990 年代はまったく逆の動きを示した時代、価格破壊が進んだ時代である。高級品は軒並み売れ行きが悪くなり、ギフト向けの洋ラン類や鉢花、観葉の価格下落が続くいっぽうで、低単価の花苗はガーデニングブームに支えられて躍進した。

ガーデニングまっ最中のときに、ある人が次のようなことを言っていた。『ブームに支えられて伸びは、その後に必ず反動がある』 事実その通りになり、次の時代が見えずに苦労している今であるが、私自身は『安売りの次は高級品』と考えている。そして、その最初のターゲットはマンション族を対象とするグリーンであると推測している。

マンションの供給戸数が全国で 8 万戸を超えているという。8 万戸を超えるようになったのは 1994 年頃からで、それ以前は 20 年平均で 4 万戸台というから、8 万戸という数がいかに大きな数字かわかる。そして、そのうち 6 万戸ほどが首都圏で販売されている。であるから、少なくとも東京では観葉植物がもっと売れてしかるべきである。確かに、その兆候は一部に見えているが、社会現象といえるほどの勢いはなく、今年は暖冬だったこともあり観葉植物はかなり安い。潜在需要は間違いなくあるのに顕在化できない。

『なぜ? 供給と需要のミスマッチ? 何が欠けている?』 まず思いついたのは都心部への販路が塞がっているのではないかとということ。首都圏のマンション供給は、当初、都心部から火がつき、人の都心回帰が進んだと言われている。いっぽう、都心部の花店は切花を中心に販売するフラワーショップであり、花苗を置くにもスペースに限界があり、ガーデニングブームの恩恵も少なく、鉢物類の販売は大きく落ち込んでいると推測される。フラワーショップに残ったのはコチョウランなどの高額商品であるが、その中にグリーンは含まれていないのではないだろうか。いっぽう、生産側をみると、量産技術の普及により、画一化、規格化された商品が増え、また量産しやすい品目に偏った結果、個性的な商品が減少しているのも事実である。さらに小売店全般にいえることだが、新たな価値を付加して差別化を進め、それなりの値段で売るという意識が薄れていることも観葉ブーム再来の妨げになっていると考えられる。

都心部への販路開拓が必須であり、観葉植物を筆頭に、インドアで楽しめる品目・品種の導入を進めてアイテム数を増やし、小売に於いては差別化のための工夫を行う。これが観葉植物低迷への処方箋である。また、この処方箋が具現化できれば、そこには新たな鉢物マーケットが見えてくると思う。



業界 NEWS

◆スカイフロントコーディネーター・屋上緑化（初級）資格試験、募集開始！

特定非営利活動法人屋上開発研究会は、屋上緑化が正しく普及するために、建築と造園の仕事に携わる実務者の知識・技術向上を目的として、今年も「第4回スカイフロントコーディネーター・屋上緑化（初級）資格試験」の募集を開始した。同資格試験のための講習会も9月8・9日は名古屋と福岡、9月15・16日は東京と大阪で開催される。上級資格の設定は準備中。

・試験日／2007年11月4日。申込受付／2007年6月1日～9月29日。試験会場／東京・大阪・名古屋・福岡
・問い合わせ 屋上開発研究会＝TEL 03 (3358) 1175。http://www.sky-front.or.jp/planner/index.html

◆第2回関西エクステリアフェア2007 6月22日（金）～23日（土）開催

40社近くのメーカーが出展する、エクステリアの一大イベント。今年は、エクステリアから創造する暮らしの「楽しさ」「心地良さ」をイメージできる展示会。22日には 川上勝弥氏（小山工業高等専門学校助教授）を講師に迎え「あんしんなブロック塀をめざして」をテーマにセミナーも行われる。会場／インテックス大阪（大阪市住之江区）。入場無料。

・問合わせ 実行委員会事務局＝TEL 072 (638) 8888。http://www.kansai-exf.com/

今月の会員紹介 グリーン・コムジャパン(株)（代表取締役社長 三宅達郎）

<http://greendotcom.jp/>

グリーンコム起業のきっかけが我が家の庭の芝を枯らしてしまったことが動機で、いまや芝だけでなく軒下の花壇もふさふさと茂りいかに適切な水やりが植物にとって必要か実感しています。忙しいライフスタイルや高齢化に伴う水遣りの悩みに対し、自動散水はもっとも確実にまた経済的な解決策だと確信しています。特に個人住宅に自動散水システムを普及させることが夢で、そのためホームページをこの度全面的に作り直し、自動散水の基礎知識や一般の方でも自分で設置できる施工に仕方などを盛り込んだコンテンツにしました。

皆様のアクセスをお待ちしております！！

事務局だより

先月、テレビで「日本周辺海域の年平均海面水温が、全世界の2倍強の割合で上昇」なんてことを聞いてゾッとしました。環境問題を考えるにあたり、「人類と地球の共生」について考えなければ・・・ということはよく聞きますが、さて、どうしていいものか、難しすぎて困ってしまいます。そこで、「ヒトと植物の共生」に置き換えてみると、ぐんと身近になり、実践されている方も多くいらっしゃいます。今回の総会記念セミナーは、こんな時代に必要とされ、輝き注目されている2名の講師、佐藤哲信氏（日本公開庭園機構代表）と、お馴染みの野村勘治氏（野村庭園研究所取締役）。環境産業を目指す園芸、造園、エクステリアなどに携わる人には必見の、充実したセミナーではないでしょうか。まだ、お申込みをされていない方、この機会をお見逃し無く！

※「会員の皆様のニュースをお寄せください！」

イベントやツアーなどの催しや会社移転などの告知、商品についての情報などを紹介いたします。
お申込みは、資料を郵送またはFAX、E-mailなどで下記事務局まで。お待ちしております。

ガーデンを考える会 事務局
〒451-0045 名古屋市西区名駅 2-25-10 ヤマエイビル 4F
TEL：052-571-7911 FAX：052-571-2208
E-mail：npogarden@green-joho.jp